

特許出願番号取得のご報告

いつもお世話になりまして誠にありがとうございます。
さて、弊社では東日本大震災後、複数の国立大学と「巨大地震発生の予測による事前BCP」を主たるテーマにS-CAST予測システムを産学協同研究によりセキュリティー、防災のグレードアップに寄与すべく努めてまいりました。

従来の気象業務法の範囲内の電離層最下部のみの擾乱観測に加えて太陽活動のノイズを受けにくい、より観測精度の高い電離層全層を観測する手法を弊社が中心となり大学や天文台と研究を行ってきた結果、この度、特許庁長官より4月1日付で「特願2014-75010」の出願番号を頂きました。以後、同種の特許出願は排除されます。
それに伴い、4月1日より、SUPER S-CAST BCP地震予測配信サービスを開始致しました。

去る3月28日、国は首都直下型大地震警戒310区市町村、南海トラフ大地震警戒707市町村を指定しましたが、このエリアの自治体・企業の事前BCPに寄与すべく努めてまいります。

併せて巨大地震発生日予測の短期化により、義務化された避難計画や、短期備蓄の効率化提言にも取り組んでいるところでございます。

また、チリでは2010年にM8以上の巨大地震があったばかりでわずか4年後の昨日に、M8.2、M7.8が発生すると言う従来の常識が通用しなくなったプレート断層活動については、更に前兆現象の観測を行う事により、皆様の減災に寄与できるよう努めてまいります。
但し、津波はチリで発生したものが日本へ到達し被害を及ぼす場合もありますが、地震活動は、チリと日本ではプレートが異なるので直ちに関連する可能性は低いといわれています。